

來寺が卯辰に居た時の末庵念西院のあつた所だからの名である。

ネンジュウギヨウジ 年中行事 藩政時代

金澤附近に於ける城中及び民間の年中行事を列挙すると略次の如くなる。但しこれは藩末のものである。

正月元日。藩侯は年寄・家老・若年寄以下の拜賀を受け、又鶴の庖丁の儀を見る。

正月二日。藩侯は昨日に續き臣僚の拜賀を受け、夜は謡初がある。民間では賣初と試筆とを行ふ。

正月三日。藩侯は天徳院・寶圓寺の祖廟に詣で、又臣僚の拜賀を受ける。士人相互の年頭廻禮は是の日で終る。

正月四日。藩侯は引續いて臣僚の拜賀を受け、弓の射初・鐵炮の打初・馬の乗初・御馬洗・諸役所の用初がある。民間では米仲買が初相場を立てる。

正月六日。藩侯は寺社方の拜賀を受ける。夕刻城の内外に於ける松飾を撤する。民間ではこの夜年越の儀がある。

正月七日。人日であるから頭分以上の士が登城祝賀する。民間では早曉七草を糺す。

正月八日。醫師の家に神農祭がある。是の日以後越前萬歳が城下を廻る。

正月九日。藩侯寶圓寺の祖廟に詣でる。

正月十日。藩侯城外に在る徳川氏の佛殿に詣でる。

正月十一日。武家に口祝、商家に藏開を行ふ。

正月十二日。藩侯如來寺・寶圓寺に詣で、歸城の際十村・山廻・新田裁許の拜賀を受ける。

正月十三日。藩侯城内の東照宮に詣でる。城中臺所に於いては十村・山廻・新田裁許に酒肴

を與へる。正月十四日。民間にこの夜年越の儀が行はれる。

正月十五日。藩侯小松城番・遠所寺庵等の拜賀を受ける。夕刻殿中及び城内の注連飾・間繩を撤する。この日は朔望の禮がない。神社には早朝左義長の儀があり、松飾等を焚く。神明宮に日待の祭を行ふ。

正月十六日。諸役所の事務を開始する。天徳院に閻魔祭が行はれる。是の日から二十日まで奉公人の敷入が許される。

正月十七日。改作奉行は十村等を御算用場に集めて農事を勸奨する。

正月十八日。民間に十八粥の儀が行はれる。

正月十九日。城中に鏡開の儀がある。所々に七面祭が行はれる。

正月二十日。越前萬歳是の日を限りとして城下を去る。民間ではこの日を二十日正月といひ、又夷子祭が行はれる。

正月廿五日。淨土宗寺院に開祖忌がある。

正月晦日。藩侯天徳院に詣でる。

二月朔日。小松城番等の拜賀を受け、又頭分以上の朔望の禮を受ける。民間では重ねの正月といふが、何等の儀式がない。

二月二日。藩から扶持米を受ける者に、二月から八月までの分を支給する。武佐廣濟寺に寶物の展覧を許す。

二月十日。河北郡戸室山の祭がある。

二月十五日。頭分以上の士が登城して朔望の禮を行ふ。一向宗以外の寺院に涅槃會が行はれる。

寶來寺に雛子詣が奉納せられる。二月中。初午の日に稻荷祭があり、髪置・袴着・紐落等の初事も多くこの日に行はれる。又上丁の日に孔子祭があり、彼岸七日間に彼岸會がある。

三月朔日。頭分以上朔望登城の禮を行ひ、藩侯在城の時は、多くこの月に參勤するから出府の挨拶を述べる。

三月三日。上巳の佳節だから、頭分以上が登城謁見する。民間には雛祭を行ふ。

三月五日。奉公人の出代がある。

三月十三日。この日から廿二日までの間、寺町日蓮宗寺院に千部法會がある。

三月十五日。頭分以上朔望の登城を行ふ。所に八幡祭がある。

三月廿二日。眞言宗寺院に開山忌がある。

三月廿五日。一向宗に蓮如忌を行ふ。

三月中。中旬に花見遊山がある。下旬までに切米取の足輕に正月から八月までの祿を支給せられる。是の月越後から角兵衛獅子が来る。

四月朔日。頭分以上朔望の登城をする。今日から袴を着し、足袋を穿かない。觀音院に神事能がある。

四月二日。引續き觀音院の神事能がある。郊外箏舞の猿丸宮に祭禮がある。

四月八日。一向宗以外の寺院に涅槃會を行ふ。是の日から城下卯辰の日蓮宗寺院に千部法會がある。

四月十五日。石川郡大野湊神社に神事能があり、それを寺中の能というた。

四月中。上巳の日に卯辰誓願寺に辨財天祭がある。この月舟遊・濱遊が行はれる。

五月朔日。頭分以上が朔望の登城を行ふ。

五月五日。端午の佳節だから、頭分以上が登城し、この日から帷子を着用する。民間でも端午の祝儀を行ひ、單衣を着る。

五月十五日。頭分以上が朔望の登城を行ふ。神明宮では日待の祭禮がある。

五月十九日。所々に七面祭を行ふ。

五月中。猿廻の城下に來るものが多い。

六月朔日。頭分以上が朔望の登城を行ふ。民間では氷室の祝儀がある。

六月七日。是の日から十五日までに諸寺祇園祭を行ふ。

六月十五日。頭分以上朔望の登城を行ふ。金屋町長久寺に妙見祭がある。

六月十八日。郊外大乘寺から五香湯を施藥する。

六月廿四日。卯辰全性寺に清正公祭がある。

六月晦日。諸社に夏越の祓を行ふ。

六月中。土用中諸寺寶物の虫干をなす。土用後から初秋にかけて、修驗等彌彦送と稱する惡魔拂を行ふ。

七月朔日。頭分以上朔望の登城を行ふ。知行取の士家では半納の朔日といひ、この日以後收納米の半額までを賣拂ふことを得、米仲買は半納の相場を定める。

七月七日。七夕の佳節で星祭を行ふ。東西本願寺別院にお花揃、大乘寺に虫干がある。

七月九日。四萬六千日と稱し、觀音院に觀音の祭がある。

七月十三日。今夕魂迎を行ふ。

七月十四日。盂蘭盆の初日である。今日から